

有 鄰 館



江戸時代、近江の商人、矢野久左衛門さんが商売を始め、2代目久左衛門さんが現在地に店舗を構えました。「有鄰」は、孔子の「徳弧ならず必ず鄰あり」という故事から引用。桐生市が建物の寄贈を受け、市の施設として教育委員会が所管しています。市民を中心に活用されていますが、有志の協力により施設が運営されています。

煉瓦蔵



大正9年に、味噌や醤油を作るために建てられた蔵で、壁がイギリス積み、柱がフランス積みのめずらしい煉瓦の積み方になっています。

酒屋小路



有鄰館の敷地外になりますが、ドラマや映画の撮影、パンフレット等でよく使われている小路です。

塩 蔵



味噌・醤油の原料に塩を使うので、その倉庫です。台帳上では明治31年と記されていますが、銅版が残っていて実際はそれ以前からあると思われます。東日本大震災の時に17度傾いてしまい、1年かけてゆっくり戻しました。

酒 蔵



味噌・醤油蔵



中央にある壁の手前が味噌蔵、奥が醤油蔵です。明治22年以前の建物と認識されています。壁の奥側が外壁なので、醤油蔵はそれ以降に継ぎ足して造られたものです。奥の部分だけ煉瓦がありますが、ここは麴を蒸していた場所で、炭を使用していたので炭の跡が残っています。



台帳上は明治31年とありますが、銅版では、明治22年以前からあると推定されます。ここは非常に厚い壁となっています。